

## 平成29年度課外プロジェクト実施報告書

(課外プロジェクト名)

世界とつながる日本～カンボジアから学ぼう,感じよう,考えよう～

### 1. 組織

代表者	学校教育学部	3年	笠原健志
	学校教育学部	3年	岡田陽南
	学校教育学部	3年	普輪崎捺月
	学校教育学部	3年	安則栄美
	学校教育学部	3年	山口真央
	学校教育学部	2年	大橋和歩
	大学院小学校教員養成特別コース	1年	荻田悠介

### 2. プロジェクトの概要

グローバル化の進む現代において、急速な技術の発展は人と人とのコミュニケーションのあり方に変化をもたらしたり、また将来子ども達の働き方にも影響を及ぼすであろうと考えられる。さらに学校教育内において外国語活動や英語の導入など子ども達が海外に目を向ける機会も増えてきた。そういった環境だからこそ一方的に他国に関する知識を得るのではなく、両国相互のやり取りによってつながったという実体験を持つことが今後世界に目を向けるきっかけにつながるのではないかと考える。

本単元ではそんな相互理解に焦点を置き、子ども達が自ら考え、想像し発信するという活動を行う。そして世界をより身近に感じ様々な課題を自分に関係するものとして捉え、子ども達の将来に活かすことを目的としている。

なお、本実践では一枚のワークシートを通して両国の子ども達が絵を描くことによって交流することで、対象年齢に制限なく活動できより相互理解が促進されると考えた。

### 2. プロジェクトの計画及び活動詳細

#### (1) プロジェクトの詳細

私達が日本の子ども達とカンボジアに関わる様々な人々の媒介として交流することを特徴とし、全4時間を想定した単元である。

2018年7月にカンボジアについての大まかな説明や国際理解に関する授業を行った。さらに、前時をもとにカンボジアの子ども達に向けて自身の“大切なもの”の絵を描いた。

9月にメンバーが実際にカンボジアへ渡航し、現地での国際理解教育の実施、日本の子ども達が描いた絵に対する返信を行った。

帰国後、11月にカンボジアの子ども達からの“大切なもの”の絵を通して相手を想像し、カンボジアの内戦等の歴史に関する授業を行った。

## (2) 活動詳細

西脇市立 S 小学校の総合的な学習の時間に、ゲストティーチャーとして授業を行った。学習後も、子ども達が様々な問題に対して自主的に解決する方法を考えられるように、児童参加型の実践を行った。

### ア. 目標・ねらい

- ・絵を通じた交流から、絵で繋がった相手のことを想像し人としての多様性やその良さについて気づくことができる。
- ・「笑顔」という言葉をもとに、お互いの大切なものを知り共通点や相違点を踏まえたいえでみんなが笑顔になれるには自分に何が出来るか考えることができる。

### イ. 指導案略

(ア) カンボジア渡航前 西脇市立 S 小学校での授業 (2018 年 7 月 13 日)

1 時間目：カンボジアについて知ろう。

- ・アイスブレイク…子ども達と初対面での授業であったため、カンボジアで 1.2.3 を表す「モイピーバイ」という言葉を使い、実際に他言語に触れながら手をたたくゲームを行った。
- ・カンボジアについて知る…図や写真を使いながらカンボジアの環境や生活などを知り、日本との類似点や相違点などを挙げた。
- ・心の中は同じかどうか考える…環境が違くと心も違うのかなという発問から心の中は同じかどうか、どのようにすれば分かるのかを考え具体的な行動として挙げた。



2 時限目：カンボジアの子ども達に向けて大切なものを発信しよう

- ・大切なものを考える…大切なものを考え発表し、同じクラスにも同じ意見や違う意見が様々あるということに気付かせる。
- ・ワークシートに絵を描く…カンボジアの子ども達に思いをはせながら大切なものを絵に描く。



(イ) カンボジア渡航ユアングオーダム小学校での授業 (2018年9月6-8日)

<9月6日(交流初日):アイスブレイク>

子ども達と初対面になるメンバーもいたことから、終日アイスブレイクとし、現地での遊びを教えてもらうことや、遊具で遊ぶなどの交流を交わした。また日本から折り紙を持参し、子ども達と共に鶴や兜などを折った。



<9月7日(授業実施日):日本の紹介,日本の子どもたちに発信しよう>

1時間目:日本ってどんな国?

・日本について知ろう…日本の紹介を行うにあたって子ども達が想像しやすいように実際に絵の交換をするS小学校の写真や、絵などを使用した。

2時間目:日本の子どもたちに大切なものを発信しよう

・ワークシートに絵を描く…日本の子ども達から届いたワークシートを渡した。左半分の大切なものの絵を受け取り、右半分に自身の大切なものの絵を描いてもらった。



\*カンボジアへは2017年8月31日から9月9日まで滞在し、その間にプノンペン日本人学校の訪問や、カンボジア内戦に関するスタディツアー、現地日本人起業家との交流、アンコールワットやプレアヴィヒア寺院等の世界遺産見学等を行った。

(ウ) カンボジア渡航後 西脇市立S小学校での授業 (2018年11月27日)

1 時間目：相手の大切なものを知ろう

- ・大切なものの絵から相手を想像する…カンボジアから届いた大切なものの絵を見てどのような相手が描いてくれたのかを題材や色遣いなどをもとに想像した後、実際に相手の写真を見ながら、どのような相手と交換し合ったか発表し合った。



2 時間目：みんなが笑顔になれるには何が出来るか考えよう

- ・カンボジアの歴史を知る…グラフや当時の写真からカンボジア内戦に関する歴史を知った。
- ・みんなが笑顔になれるには何が出来るだろう…大切なもの＝笑顔になれるものというキーワードをもとにみんなが笑顔になれるには何が出来るのか考えた。



#### 4. 得られた成果

今回の実践の特徴である日本とカンボジアの子ども達に同じ内容の授業を実施した点から、大きく分けて2つの点が挙げられる。

まず1つは、両国の子ども達にとって、「家族」「友達」「両国を結ぶ心」は大切なものであるということである。このことから、家族や友達は国籍等関係なく人として誰しもが大切にしているものであると確信できる。「両国を結ぶ心」については意外だったが、ワークシートを書く前の授業部分で相手のことを意識できていたことで両国に見られたのではないと思われる。

2つ目に大切なものの絵と回答から、日本とカンボジアの子ども達の視点の違いがあげられる。絵の描き方・色彩の違いからは、物の捉え方や色彩感覚の違いにも気づき、新た

に物の見方を広げられた。一方でカンボジアの子ども達は「国」「学校」「植物」と回答し、物理的に大切なものを認識していると考えられる。日本の子ども達のあげていない当たり前で注目したことの無いものが回答によって得られた。生活環境の違いや価値観の違いが表れたと言える。

また、目標でもあった、絵を通じた交流から絵で繋がった相手のことを想像し、多様性やその良さについて気づくことができることは、おおむね達成できたと思う。なぜなら、両国の子どもたちが能動的に相手のことを知ろうとし、さまざまな違いについて受け入れようとする姿勢が授業の態度や感想のワークシートなどから読み取ることができたからである。「どうすればみんなが笑顔になれるのか」という問いに対しては、「一緒に遊んでみる」「大切なものをお互い大切に作る」といった相手のことを思いやったアイデアがあり、「笑顔」を生むために自分は何が出来るのかを考えることが出来た。「実際に話してみたい。」「もっと相手のことを知りたい。」という国際理解教育における最も重要な基礎となる部分を養うことができたと思う。ただ、大切なものを通じたことで相手自身を理解するには想像させる部分が多く、核心をつくことは難しかった。子ども達の興味を引く教材としては効果的でどの学年でも参加できるものであったが、今後の活動では情報をより効果的に使えるよう工夫することが課題である。

今回は相互理解のための教材として絵を使い、子どもたちや担任の先生からの反応が非常によいものであることが確認できた。言葉や文化の違う人に、自分のことを発信し相手からも受け取るという活動は、インターネットを使ってもできないことである。自分のために描かれた絵は、下書きを消した後や色を塗りつぶした痕跡からぬくもりを感じ、子ども達の心の中に残るので良いと思った。来年度以降も、絵を使って同じような取り組みを継続的に行い、両国の子どもたちにとって将来に生きる活動を行いたい。

## 5. 費用の内訳

(円)

消耗品	旅費	謝金	その他	合計
0	0	198600	0	198600